



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペり日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/10 (月)	+ 500	▲ 5,100	▲ 4,600	国庫短期証券発行償還 (3M/6M)	国債買入 + 11,000 CP等買入 ▲ 500 社債等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 34,800		日：GDP (1~3月改定) 日：貿易収支 (4月)
6/11 (火)	トン	+ 2,000	+ 2,000				米：FOMC (1日目)
6/12 (水)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000	流動性供給 源泉税揚げ 後期高齢者医療給付費等負担金の支払い等	共通担保 ▲ 7,000		米：FOMC (2日目) 米：CPI (5月)
6/13 (木)	+ 1,000	+ 8,000	+ 9,000				日：日銀金融政策決定会合 (1日目) 米：PPI (5月)
6/14 (金)	▲ 2,000	+ 75,000	+ 73,000	流動性供給 年金定時払い			日：日銀金融政策決定会合 (2日目) 欧：ECB総裁、講演

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比5兆8,400億円減少の545兆6,900億円から始まった。その後、税揚げや国債発行等の要因により減少し、7日は538兆4,100億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後もビットサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~1M物を中心に0.15%~0.24%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、10日にGDP (1~3月改定) の公表、13・14日に日銀金融政策決定会合などがある。海外では11日、12日にFOMC、12日にCPI (5月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.078
1M	0.15 ~ 0.20
2M	0.15 ~ 0.30
3M	0.15 ~ 0.30
6M	0.30 ~ 0.50

<レポ>

足許GC取引は週央まで+0.05%~+0.07%のレンジを中心に推移した。6日は後場にレートが低下し、一時マイナス圏での出合いも見られた。短国の発行が重なる7日は再び+0.05%~+0.07%の出合いが中心となった。

SC取引は2年438~460回債、5年149~168回債、10年350~374回債、20年180~188回債、30年65~82回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

<CP>

今週の入札発行総額は約8,100億円で、週間償還額の約6,700億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆9,188億円から6月6日時点で23兆9,880億円に増加した。発行市場は鉄鋼業、卸売業、電気機器、電力などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で0.1%台前半から0.25%近辺での出合いであった。

来週の償還額は、約8,700億円となっている。発行市場は、発行体による四半期末の有利子負債圧縮目的から市場残高が漸減するマーケットになると予想される。発行レートは、引続き0.1%台前半からの出合いと予想する。

11日にCP等買入れオペが3,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

6月6日の6M (1235回債) の入札は、最高落札利回り0.0877% (前回債0.0947%)、平均落札利回り0.0858% (前回債0.0789%) となった。

6月7日の3M (1236回債) の入札は、最高落札利回り0.0220% (前回債0.0381%)、平均落札利回り0.0172% (前回債0.0316%) となった。

来週の入札は、6月13日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。